

■新型コロナウイルスの影響について

令和3年度は、緊急事態措置が出されたものの、新型コロナウイルス起因の臨時休館はない。また、1月21日から3月21日までのまん延防止等重点措置では、当館運営に影響する規制はない。

令和3年度	措置の推移	当館の対応
4/28-5/11	まん延防止等重点措置①	創作室夜間枠新規貸し出し中止 主催事業は中止、延期または縮小
5/12-6/20		創作室夜間枠新規貸し出し中止 主催事業は中止または延期
7/20-8/1		創作室夜間枠新規貸し出し中止、 収容率50%以下とする
8/2-9/30	緊急事態措置	創作室夜間枠新規貸し出し中止、 収容率50%以下とする
1/21-3/21	まん延防止等重点措置②	

なお、コロナ対策としては、令和2年度から引き続き、入口での検温・消毒・記録票記入や、各部屋の収容人数上限の設定、清掃徹底などを行っている。

「川越市立美術館ガイドライン」は、令和3年4月1日付けで改訂している（各室収容人数の緩和、2階の閉鎖を解く、展示室内の会話禁止を解くなどで、コロナ対策を行うことを前提とした緩和）。以降、まん延状況によっては、観覧者や利用者に対し規制の引き締めを求めることはあったが、「ガイドライン」自体は変えていない。

■展示事業について

夏季特別展「花村えい子と漫画」に続き、秋季特別展「没後70年 吉田博展」(会期：令和3年10月23日(土)―11月28日(日)、32日間)を開催した。

なお、本展は、令和2年度春季特別展として開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発出に伴い開催を見合わせ、令和3年度秋季特別展として開催したものである。毎日新聞社との共催となる全国巡回展で、最終会場が当館であった。近隣では東京都美術館が巡回会場のひとつとなっていたため、川越会場は苦戦すると考えていたが、コロナ下で東京会場を自粛した方が来られたためか、観覧者数は想定を上回った。令和2年度の段階で予定していた関連普及事業は実施できなかったが、常設展示室の一部まで会場を拡張し、2階アートホールで関連映像「痛快！吉田博伝」を上映するなど、いまできる最大限を行った展覧会となった。

- ・概要 明治、大正、昭和にかけて風景画の第一人者として才能を発揮していた吉田博(1876-1950)が後半生を捧げた版画約150点を一挙公開。水の流れや光のうつろいを驚くほど繊細に描写した作品ほか、版本や制作の基礎となるスケッチを併せて展示し、その豊かな表現が生まれる過程を紹介した。
- ・観覧者数 7,124名 約222名/日

タッチアートコーナーは、第1期「伊藤一洋ブロンズ彫刻展」、第2期「タムラサトル展」に続き、第3期「四家真理子彫刻展」、第4期「櫻井かえで彫刻展」を開催した。このうち、第1期及び第3期展示は、令和2年度に実施したものの数日しか公開できなかった展示である。

第3期「四家真理子彫刻展」は、前回のものに新作も加えての展示となった。会期中の12月、四家氏には、川越市立霞ヶ関東中学校の授業協力事業「ミュージアム×スクール」にご参加いただいた。また、2月には、令和2年度に予定しながら中止となったワークショップも実施していただいた。

第4期「櫻井かえで彫刻展」も当館展示のために新作を制作いただき、盛沢山の展示となっている。親しみを抱きやすい作風で、市民ギャラリー目当てに来られた来館者も思わず目を奪われるようである。1月に関連ワークショップを実施済み。

常設展は、美術館の前面に出る展示として、また、当館コレクションの研究の成果として、毎回テーマを設けて展示している。特に特別展のない時期の展示は、来館者の満足感を得られるよう意識しながらセクションしている。

なお、感染症対策の一環として、12月に大型空気清浄機を購入し、各展示室に設置している。

■教育普及について

令和3年度の事業実施状況は以下のとおり。

集まって、え・み～る（常設展ギャラリートーク）	第1期・第4期：実施 第2期・第3期：中止
子ども鑑賞会（園児向けギャラリーツアー）	中止（感染症対策及び人員減による）
ジュニア アートスクエア（小学生以下対象ワークショップ、毎月実施）	5月・6月・3月：中止
タッチアートワークショップ「黄金のブロンズ溶解デモンストレーション」（前年度中止分）	4月実施
学校連携事業「4校美術部展」（GW）	4/29-5/2 実施※期間短縮
アートクラブグランプリ巡回展（6月）	6月実施（今年度のみ）
実技講座「仏画を描こう2」（前年度中止分）	7月実施
ワークショップ「ミニ灯籠を作ろう」（博物館連携事業 8月）	8月博物館単独実施
学校連携事業「川越市立中学校美術部展」	8/19-22 実施、加えてWEB作品展を12月-3月実施
彩の国教育週間「図工・美術わくわくフェスタ」（11月）	中止（人員減による）
学校連携事業「ミュージアム×スクール」（市内学校への作家を含めた協力授業）	12月 川越市立霞ヶ関東中学校を対象に実施・四家真理子氏（彫刻家）
川越市小・中学校児童生徒県特選受賞作品展（2月）	中止（県展の中止による）
金沢健一展（展示+ワークショップ+パフォーマンス、12月）	展示会場をアートホールから企画展示室にかえ実施
教員職員鑑賞会（特別展毎）	中止（感染症対策及び人員減による）
小・中学校の先生のためのアートカードワークショップ（2月）	中止（人員減による）
Kartサポート・スタッフ	活動中

《協力事業》川越市立小学校6年生バス見学（6月～11月）	実施
《協力事業》学校連携授業 出前授業 図画工作科の授業づくりの支援、造形活動の指導	中止（人員減による）

常設展ギャラリートークについては、小型の拡声器を準備し、マスクを着用したままで大きな声を出さないようにして実施。第1期に1回、第4期に1回実施することができたが、まん延状況により、中止が先行している。

市立小学6年生全員を対象とした**博物館・美術館バス見学**については、コロナの影響と、指導主事不在の状況ではあるが、職員総動員で対応。こちらも小型拡声器を駆使して対話型鑑賞を試みた。

中学校美術部展 WEB 展は、昨年に引き続き WEB 上で公開中。昨年は3年生作品だけだったが、今回は全学年対象。

金沢健一展は、昨年に引き続き、企画展示室で開催。作家が展示、パフォーマンス等、一貫して手掛ける形であり、より主張が届きやすい形となっている。会期中には作家が会場にいることも多く、看視ボランティアや観覧者に直接説明するなど、とかくわかりづらいといわれる現代美術に近づくプログラムとなっている。

Kart サポート・スタッフは、登録者数は増えたものの、サポートの機会を作ることが困難であった。これも教育普及活動の課題のひとつ。

来館を控える方や遠方の方へ向けて、また、コロナ下でのネット上でのアピールとして、川越市公式 YOUTUBE チャンネルに動画を掲載し始めている。現時点では、昨年度公開できないまま会期終了した「相原求一朗展アンコール」を紹介するものを掲載（美術館ホームページのトップからリンク）しているほか、所蔵品にズームで寄っていく「作品に寄ってみる」シリーズとして、「小茂田青樹〈菊〉」を公開。展示会場では照度やケースの関係でなかなか見られない小茂田の繊細な表現がご覧いただける。

■管理運営

2月末日までの状況は以下のとおり。

市民ギャラリー

利用可能日 272 日中、利用日 182 日（利用率 66.91%）

利用件数 32 件

中止及びキャンセル件数 4 件

創作室

利用可能コマ数 707 コマ中、利用 337 コマ（利用率 47.67%）

審議会等

川越市立美術館協議会（美術館の運営について審議）

→ 2 回開催（予定）

川越市立美術館美術品等選考評価委員会（作品の収蔵の可否について審議）

→ 1 回開催

川越市立美術館利用研究委員会（美術館と学校利用について審議）

→ 2 回開催

作品管理

購入 1 点（予定）、寄贈 18 点、寄託 4 点

初雁公園整備事業の影響

市制施行 100 周年記念事業として、川越城本丸御殿周辺の整備を行っている。その影響により、来館者用駐車場は、駐車可能台数が少なくなっており、また、入口位置の変更などが生じている。

空調系統修繕の実施

収蔵庫排気ファンの整備、2 階会議室空調室内機整備等。